

# 第96回コンクール課題 (テーマ=むし)

幼 年 (えんぴつ)

か	と	ち	せ
ぶ	ん	よ	み
と	ぼ	う	
む			
し			

小 三 年 (えんぴつ)

野	た	な	追	ち
原	く	の	っ	よ
に	さ	花	て	う
着	ん	が	走	ち
い	さ		っ	よ
た	い		た	を
	て		ら	
	る			

小 一 年 (えんぴつ)

は	え	あ	カ
こ	さ	り	も
ん	を	さ	ち
で		ん	の
る		が	

小 四 年 (ペン)

銀	日	た	く	夕
色	に	く	も	立
に	照	さ	の	の
光	ら	ん	す	あ
る	さ	の	に	と
	れ	水	付	
	て	玉	い	
		が	た	

小 二 年 (えんぴつ)

と	ぶ	み	野	お
ん	ん	つ	ば	池
で	ぶ	ば	ら	の
来	ん	ち	が	ま
た			さ	わ
			い	り
			て	に

小 五 年 (ペン)

準	今	選	せ	夏
備	か	ん	み	休
す	ら	だ	の	み
る	本	の	観	の
つ	を	で	察	研
も	読		を	究
り	ん			に
で	て			
す				

小 六 年 (ペン)

世	大	文	コ	フ
界	変	学	こ	ア
中	優	作	ん	ー
で	れ	品	虫	ブ
読	て	と	記	ル
ま	い	し	十	の
れ	て	て	卷	
て		も	は	
い				

中 一 年 楷書 (ペン)

鋭	固	深	食	昆
い	い	い	べ	虫
あ	も	関	る	の
ご	の	係	物	口
が	を	が	の	の
必	か	あ	種	形
要	じ	る	類	は
だ	る	に	と	
	は			

中 二・三 年 行書 (ペン)

鋭	固	深	食	昆
い	い	い	べ	虫
あ	も	関	る	の
ご	の	係	物	口
が	を	が	の	の
必	か	あ	種	形
要	じ	る	類	は
だ	る	に	と	
	は			

※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小四までは上一段あけて書いて下さい。句読点は省略します。

半切四分の一に書くⅡ（7）

締切り 七月二十五日（必着）



神谷 葵水 先生 書

◎本誌に条幅（半切）の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことです。その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ（約六八cm×十七、五cm）で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 白雲依静渚（唐の劉長卿の詩句）

〔大意〕 白い雲が静かな谷川の岸辺にかかっている。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤渇も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べるのが肝要です。

・落款（署名・印）も作品の一部です。丁寧に取めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一（約六八cm×十七、五cm）に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版（二五七mm×一八二mm）以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。（フェルトペン・筆ペン可）

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績（硬筆の場合は硬筆規定の成績）を、作品余白にお書き下さい。

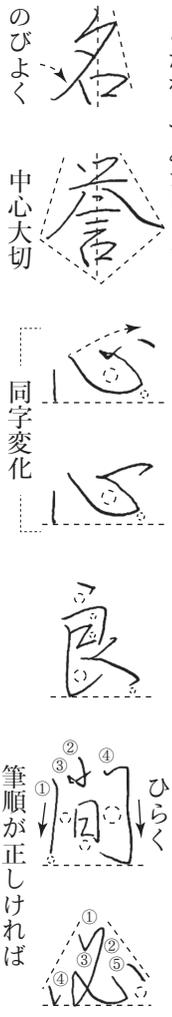
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

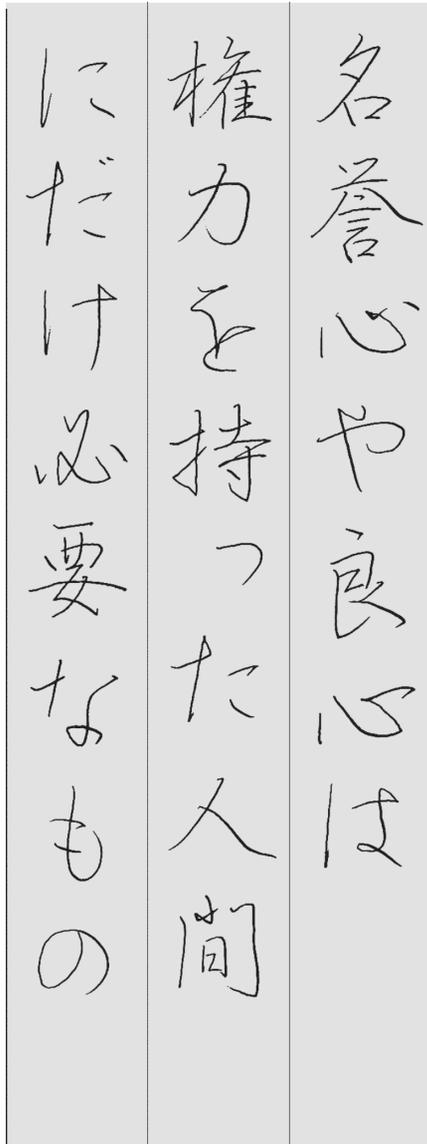
新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕



◎教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。  
 ◎行書は、手書きには最も便利な書体です。書くスピードを上げて、字形以上にのびのある線質にこだわってみましょう。



おくむら のぶ ゆき 書  
 奥村暢之

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



おお たに せい じょう 書  
 大谷清城

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範⇨行書  
 ▼師範⇨楷書

◆8月課題予告(行草または草書)  
 人間は絶望に  
 到った時には  
 かえって達観出来る

★名誉心：(書体⇨行書)  
 ゴーリキー(一八六八〜一九三六)  
 ロシアの作家  
 小説『どん底』の中で「おまえに名  
 誉心や良心はないのか」という問いに  
 対する盗人のペーベルの答え。  
 言葉は綺麗でも、それは権力者の飾  
 りものではないかという強烈な皮肉が  
 込められていて、立場や境遇が違え  
 ば、押しつけがましくなります。

◆8月課題予告(行書)  
 誰かを愛する事は  
 その人の幸福を  
 願うことです

★決定を：(書体⇨楷書)  
 プーシキン(一七九九〜一八三七)  
 ロシアの作家  
 長ちやうという肩書きを持つ者は重大な決  
 断を迫られることがあります。一晩  
 眠って冷静に考えれば良い知恵も出る  
 こともあります。  
 周囲の成り行きで即断し後悔しない  
 ためにも、人生の岐路の境目には十分  
 に立ち止まり、考えることが肝要です。

# 一般部かな課題

締切り 7月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

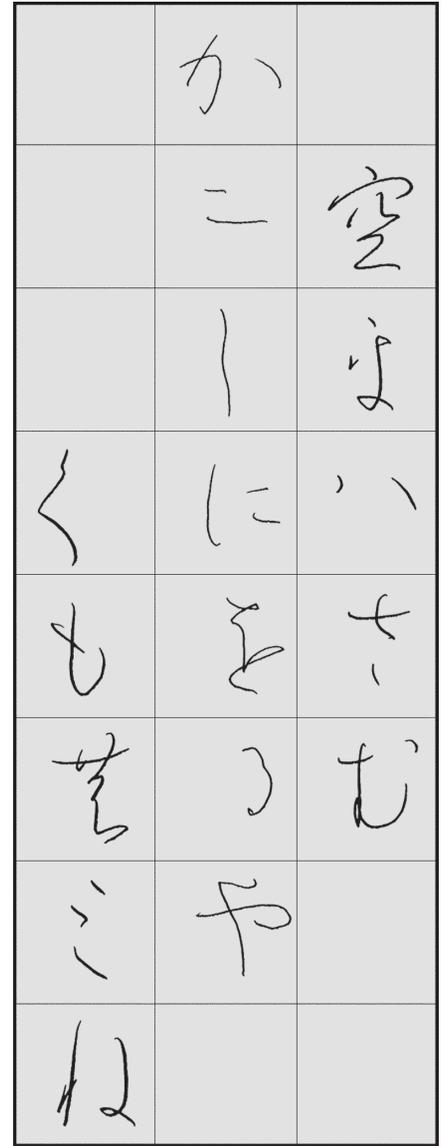


空をはさむ蟹死にをるや雲の峰  
者佐無可尔耳越乃み年

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



空をはさむ蟹死にをるや雲の峰  
乎八か二し久も農三ね

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

空をはさむ蟹死にをるや雲の峰  
かわひがしへきことう  
 (河東碧梧桐)

〔句解〕真夏の炎天下、蟹が缺で空をはさむ姿をしたまま死んでいる。その背後には雲の峰がむくむくと湧き立っていることだ。

〔鑑賞〕蟹の缺と壮大な入道雲の取り合わせといい、〈空をはさむ蟹〉だけでクローズ・アップした蟹の缺が思い起こされる修辞技法といい、空の青、蟹の赤、雲の峰の白の配色といい、従来の季題観念にまつわる配合趣味を離れた絵画的で洗練された写実味にその特色がある。

〔古筆参考〕

乎を 字安、りり  
 無む さささ  
 尔に 小よよ  
 耳に りり  
 農の 若若若

〔解説〕「」を書く時は、紙にペン先を突っ込むように入り(逆筆)、少し戻りかげんにして書くといい。

◆8月課題予告

夏の河赤き鉄鎖のはし浸る

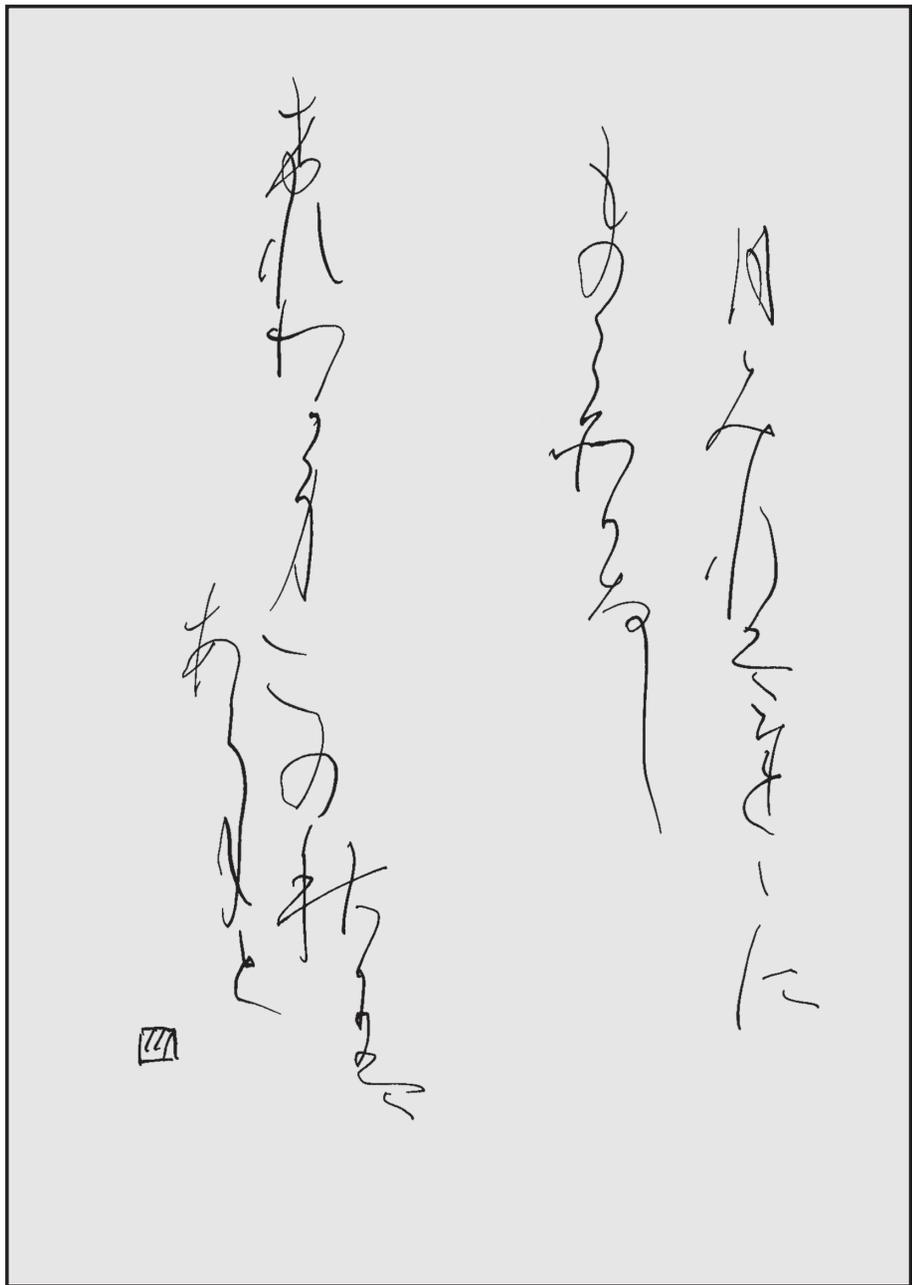
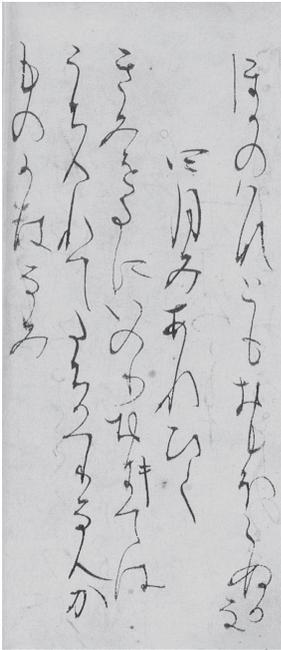
(山口誓子)

締切り 七月二十五日(必着)

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

なかつかさしゅう  
中務集



ほかの<sup>可</sup>はな<sup>八</sup>ともおもほ<sup>本</sup>えぬ<sup>可</sup>かな<sup>奈</sup>  
四月みあれひく  
きみを<sup>多</sup>だに<sup>利</sup>のり<sup>利</sup>おきて<sup>キ</sup>は  
うち<sup>モ</sup>むれて<sup>多</sup>たち<sup>可</sup>かへり<sup>利</sup>なん<sup>奈</sup>か  
もの<sup>可</sup>かは<sup>奈</sup>なみ

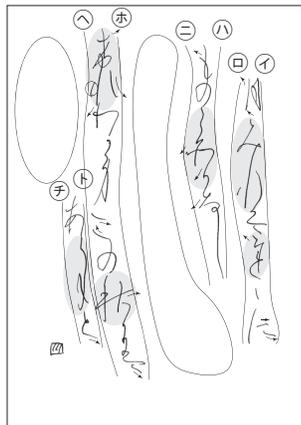
月<sup>盤</sup>みれば<sup>遊</sup>千々<sup>所</sup>にも<sup>可</sup>のこ<sup>奈</sup>そ<sup>希</sup>かな<sup>年</sup>し<sup>可</sup>けれ  
我が<sup>可</sup>身<sup>一</sup>ひとつの<sup>盤</sup>秋<sup>年</sup>には<sup>可</sup>あら<sup>奈</sup>ねど

〔歌意〕月を見ていると、さまざまに  
悲しい思いがつのってくる。なにも、  
自分一人だけの秋ではないのに。

〔出典〕古今和歌集

(新潮日本古典集成)

〔解説〕



①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、  
①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、  
①と⑪、①と⑫、①と⑬、①と⑭、  
①と⑮、①と⑯、①と⑰、①と⑱、  
①と⑲、①と⑳、①と㉑、①と㉒、  
①と㉓、  
それぞれ呼応。

・余白○、白が行を生かしてくれる。  
・行のふくらみ・ゆれ大切。  
・粗密の動き大切。  
・方向大切。

◆8月課題予告

さ<sup>よ</sup>夜<sup>な</sup>中<sup>か</sup>と<sup>夜</sup>は<sup>よ</sup>ふ<sup>夜</sup>け<sup>夜</sup>ぬ<sup>夜</sup>らし<sup>夜</sup>かり<sup>夜</sup>が<sup>夜</sup>ね<sup>夜</sup>の  
き<sup>夜</sup>こ<sup>夜</sup>ゆる<sup>夜</sup>る<sup>夜</sup>空<sup>夜</sup>に<sup>夜</sup>月<sup>夜</sup>わた<sup>夜</sup>る<sup>夜</sup>見<sup>夜</sup>ゆ<sup>夜</sup>

締切り 7月25日(必着)

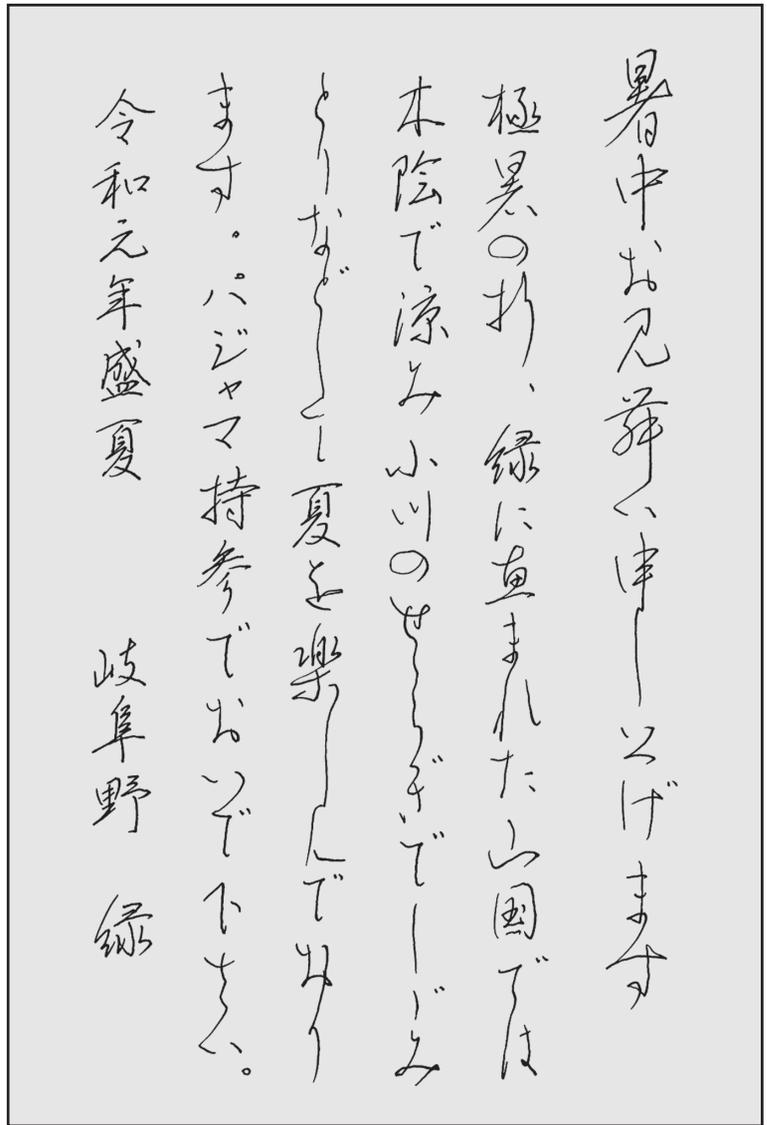
自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイディアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

暑中お見舞い申し上げます  
 極暑の折、緑に恵まれた山国では木陰で涼み小川のせせらぎでしじみとりなどして夏を楽しんでおります。パジャマ持参でおいで下さい。  
 令和元年盛夏  
 (ご自分の氏名)

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。



横書き課題

16世紀頃中国から渡来した西瓜  
 は、4000年の栽培の歴史がある。  
 青森県平川市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月25日(必着)

矢  
東  
歸  
白  
環  
西

白環西 矢東歸

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕（楷）矢東に歸り、白環西に

準初段から師範まで

奥村暢之臨

外轉 銀河花

〔読み〕銀河花の外に転ず

〔大意〕花の咲くあたりに目を転ずれば、その向こうには銀河が流れている。

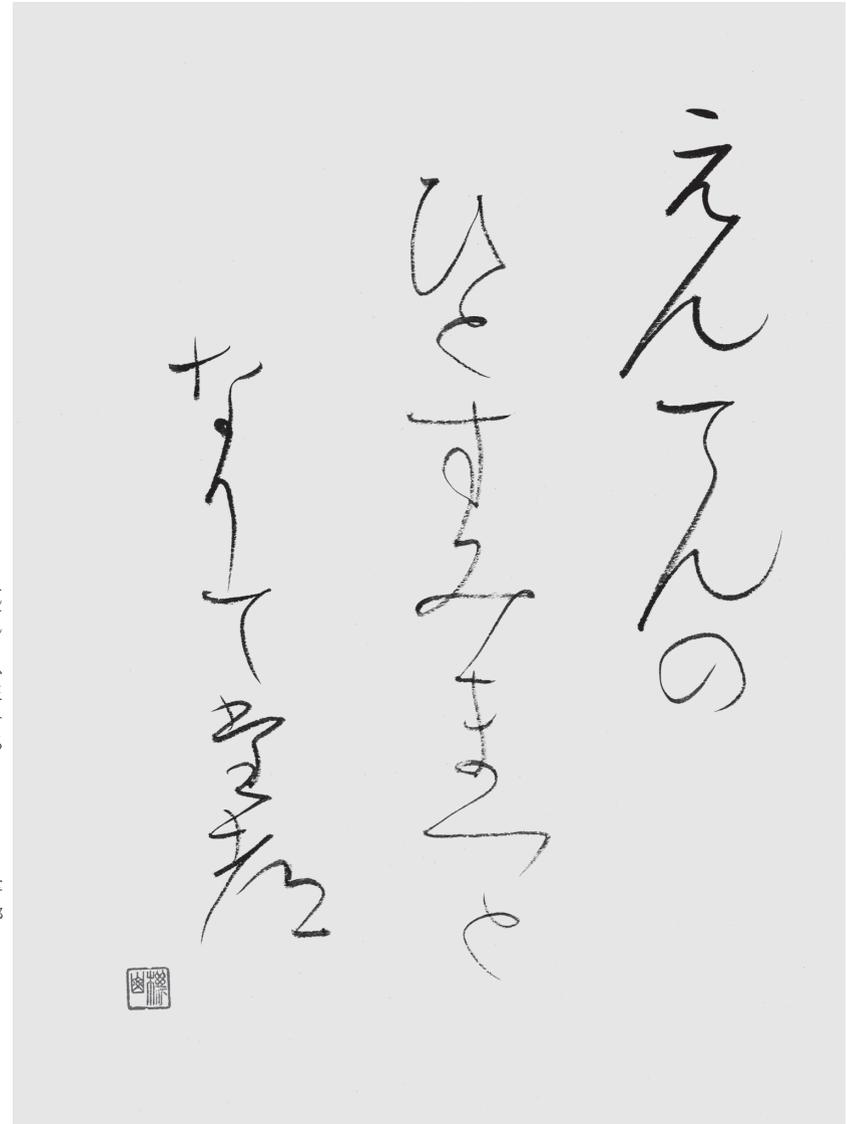
新入から1級まで（楷書）

須田一葉書

# 一般部毛筆かな課題

締切り 7月25日(必着)

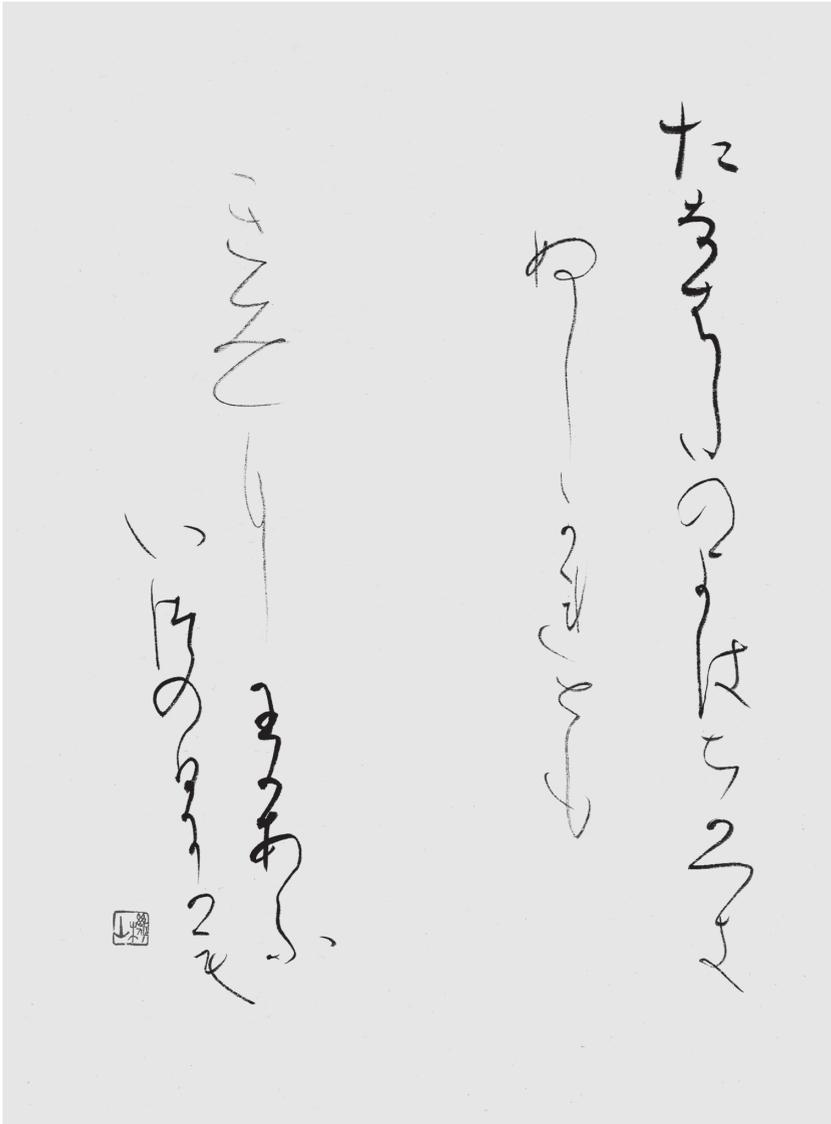
新入から1級まで



浅井機山先生書

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

準初段から師範まで



たなばたの夜は近づいた。牽牛、織女の星は逢うというのに、わたしがあなたに逢えるのはいつの日のことであろうか。

【出典】伊藤左千夫

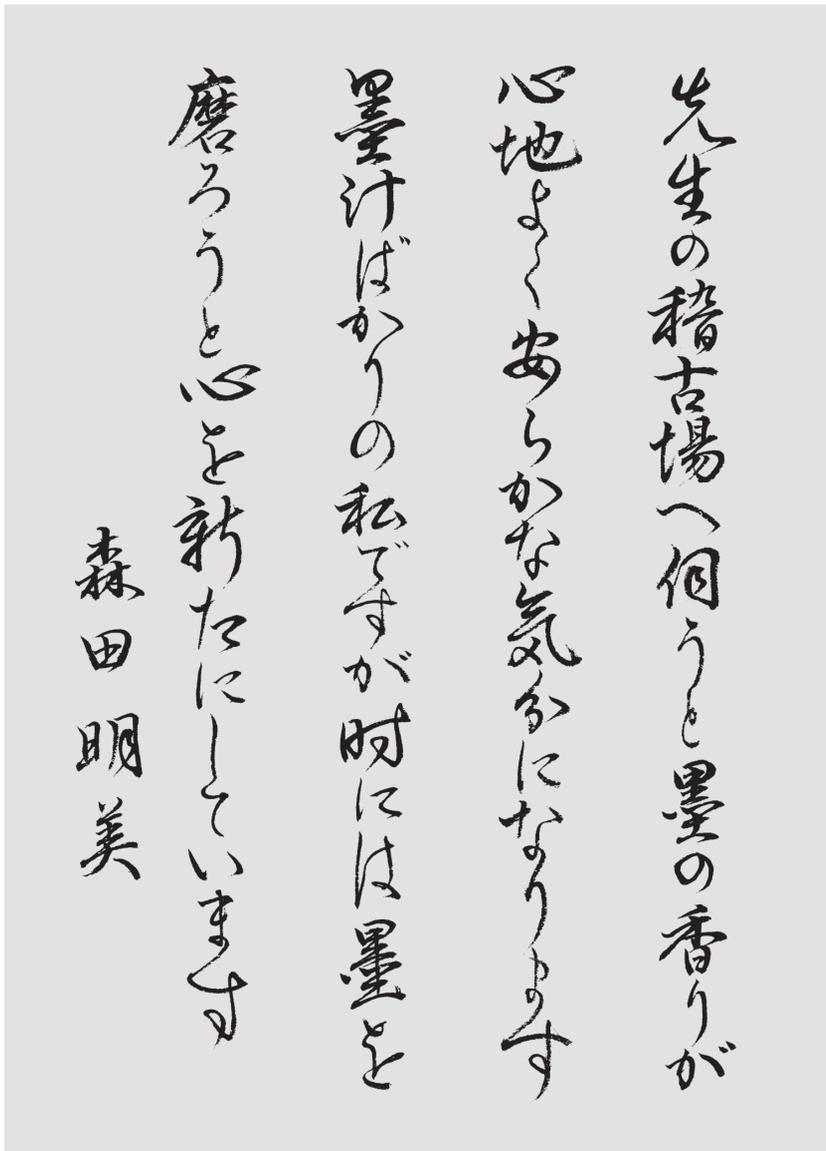
【歌意】七夕の夜は近づいた。牽牛、織女の星は逢うというのに、わたしがあなたに逢えるのはいつの日のことであろうか。

【出典】加藤楸邨

【句意】うだるような暑さの中、野に一本の松がある。森閑とした夏の野に来て、作者は一本の老松の孤高の姿を見ているのである。

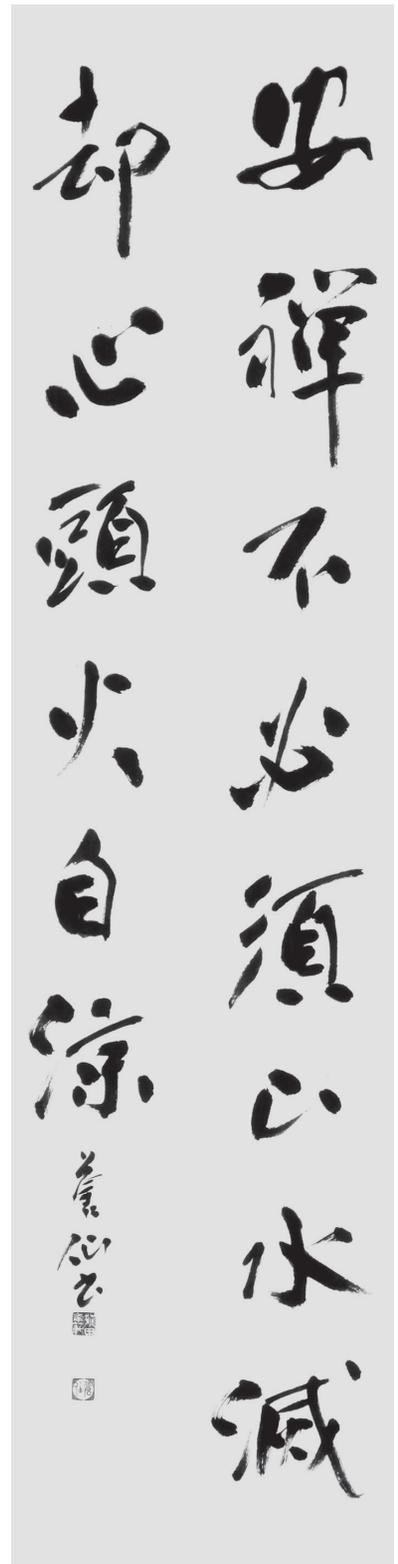
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

伊藤梅香 書



締切り 七月二十五日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙 書

安禅あんぜんはかならずしもさんずいさんずいをもちいず  
 滅却しんとう心頭しんとう火自涼しんとう

〔大意〕坐禅はどこでもでき、無念無想の境地に到れば、熱い火すら、涼しく感じる。初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕美しく咲いた花……蕾つぼみ、半開き、はなびら……文字をそんな表情に書いてみました。画と画を少しあけて(空気ぬけ)和いだ作の謹嚴な歐陽詢の楷書を参考にして。

先生の稽古場へ伺うと墨の香りが心地よく安らかな気分になります。墨汁ばかりの私ですが時には墨を磨ろうと心を新たにしています

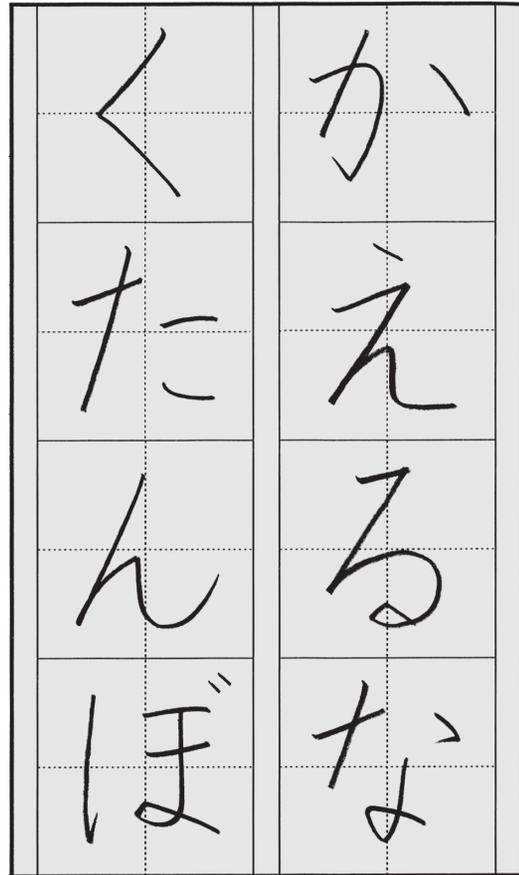
(ご自分の氏名)

・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

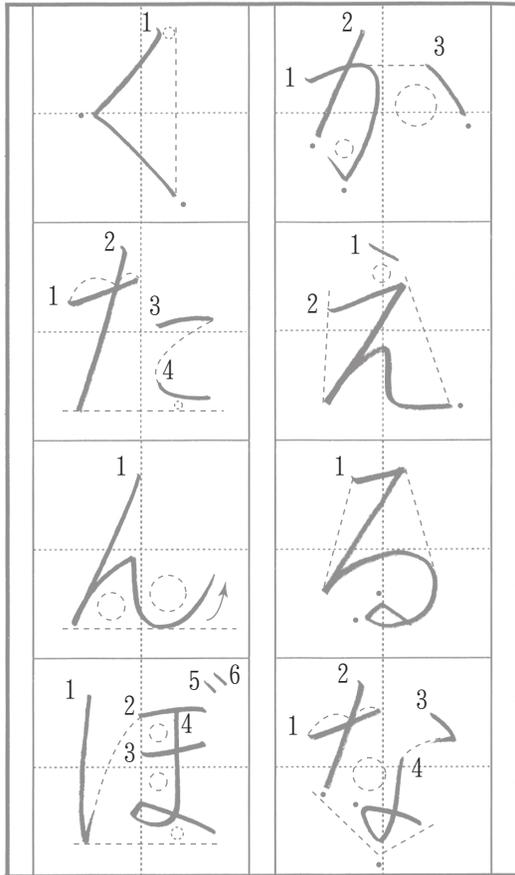
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ  
う  
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

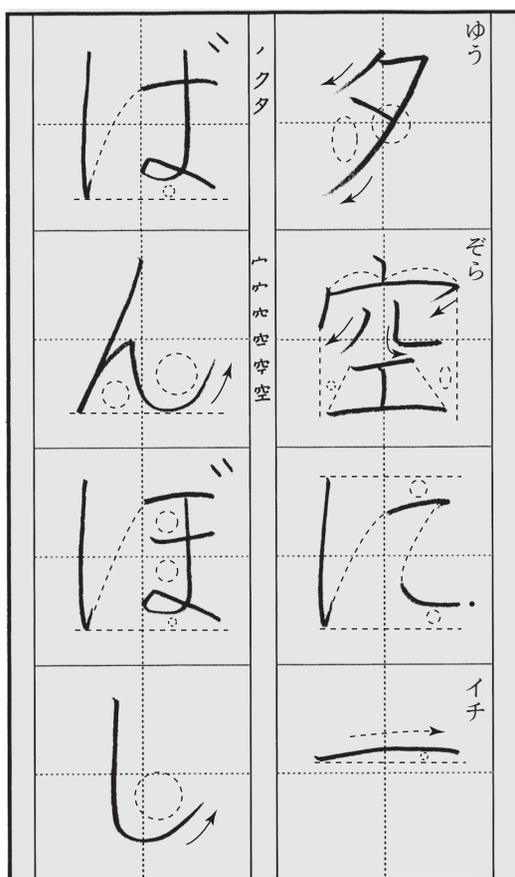
小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準  
初  
段  
以  
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

小二年

が	間	今
ふ	の	週
っ	長	は
た	い	五
よ	雨	日

準初段以上

小三年

絵	す	図
を	む	工
か	動	で
い	物	海
た	の	に

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

が	一ア五五	五	いつ
ふ	一ハ四日	日	か
っ	一ハ四門間	間	カン
た	一ハ四雨雨	雨	あめ

新入〜1級

物	ブツ	図	ズ
の	一トエ	工	コウ
絵	エ	で	
を	一ハ四動	動	ドウ

新入〜1級

〈用具 自由(黒色に限る)〉

ふ	栄 <small>エイ</small>
な	養 <small>ヨウ</small>
大 <small>ダイ</small>	ほ
根 <small>コン</small>	か

新入1級

う	れ	野
ふ	た	菜
な	栄	畑
大	養	で
根	ほ	と

小四年  
準初段以上

小四年以上  
岡嶋桂川書

読 <small>ドク</small>	暗 <small>アン</small>
答 <small>こた(え)</small>	号 <small>ゴウ</small>
導 <small>みち(びき)</small>	文 <small>ブン</small>
出 <small>だ(す)</small>	解 <small>カイ</small>

解説(よく見て習いましょう)

を	読	暗
導	し	号
き	て	文
出	答	を
す	え	解

小五年  
(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

待	戦	サ
券	の	ツ
が	入	カ
届	場	丨
く	招	観

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

招	観
待	戦
券	入
届	場

用具自由(黒色に限る)

中一年

を	い	昆
散	兄	虫
策	と	に
す	森	詳
る	林	し

(行書)

中二・三年

(行書)

た	滞	田
家	在	舎
庭	し	に
料	覚	長
理	え	期

▼小三年以下の課題 田代華光書



しめきり 7月25日 (必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 清水希光書

※真っ赤||単語としてこのように読みます。

◎お手本はえんぴつ使用

顔	毎	ほ	真	は
を	年	お	っ	ち
そ	朝	ず	赤	植
ろ	市	き	に	え
え	で	が	育	の
る			っ	
			た	



陽	輪	歌	音	バ
気	に	い	色	イ
に	な	な	に	オ
踊	っ	が	合	リ
る	て	ら	わ	ン
村			せ	の
人				



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
  - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
  - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
  - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
  - 一、成績は評価により毎月変わります。
  - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はつけペン使用



小二

五日

か

か

幼年〜小二年

水野碧友書

五 か

日 ほ

かどしつかり

小一

ほし



小三、小五年

たまきしょうか  
樹小華書

中二  
料家庭  
理庭

小六〜中二・三年

水野の香竹書

券入  
場

小六

策

場

家

券

料

散

※行書は線の連なりを大切に!

中  
散策  
本林  
林

[ペンの手ほどき]

楷書の基本線 (つけペン)

◎楷書の基本線の練習は、習字をする上でいちばんたいせつなことです。

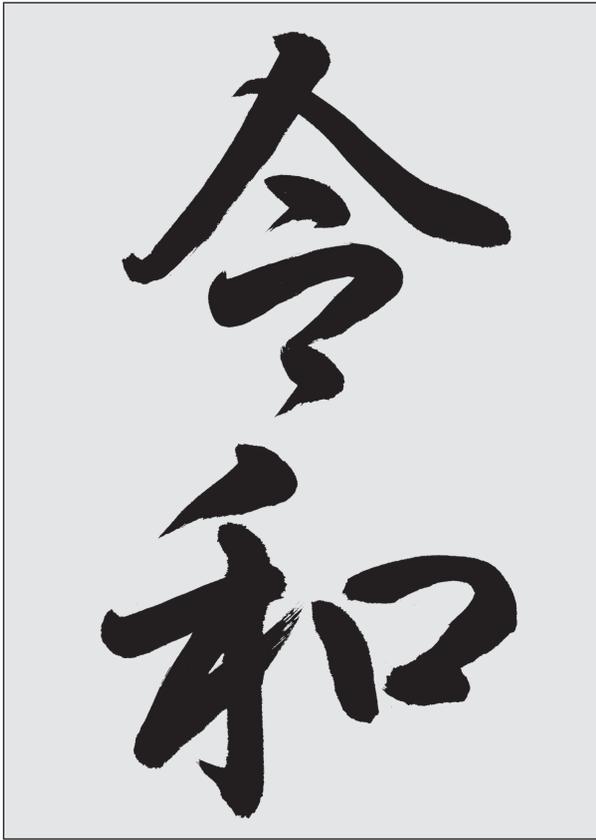
初めてペンを持つ方はもちろん、これまでペン習字に親しんで来た方も初心にかえって、のびやかに大きくおけいこしてみましょう。

1. ペン軸は指先に力を入れないよう1.5～2センチぐらい元をあけて軽くにぎる。
2. 軸の傾斜は45度～50度ぐらいがよい。墨汁をつける時は先から1センチの円い穴の辺りまでつける。使用後は、墨汁を布などできれいに拭って乾燥させ、サビを防ぐ。

<p>上にそる 下にそる</p> <p>A B</p> <p>土</p> <p>Aでおさえ、Bまで軽くおさえてとめる</p>	<p>Aでおさえしだいに速度を増しすつと払う</p> <p>A</p> <p>人</p>	<p>A B C</p> <p>写</p> <p>AからBはとめる Cで一たんおさえてから左へ軽くはねる</p>
<p>A B</p> <p>引</p> <p>Aでおさえ、Bまで一気に引き</p>	<p>A B</p> <p>大</p> <p>Aで軽く入ってだんだん圧力を加えBで一度おさえてから右へ払う</p>	<p>A B C</p> <p>元</p> <p>Aからゆつくり書き出しBで少し休んでCで一度おさえてから上へ軽くはねる</p>
<p>A</p> <p>中</p> <p>Aでおさえ、垂直にひきすつととめる</p>	<p>A B</p> <p>代</p> <p>Aでおさえそのまま右へ湾曲してBで一度おさえてから上へはねる</p>	<p>A B C</p> <p>風</p> <p>Cで一度おさえ軽く上へはねる</p> <p>たてぎみ</p> <p>三折のきもち</p>
<p>A B</p> <p>水</p> <p>少しそりぎみ</p> <p>Bで一度おさえてから軽くすつとはねる</p>	<p>A B C</p> <p>日</p> <p>Bで一たん休み、圧力をかけてからCへ引く</p>	<p>A B C D</p> <p>品</p> <p>タテは太めヨコは細めに組み合わせはがっちりとする</p>

奥村憲照先生書

れい わ  
新元号「令和」を書いてみよう！



行書



奥村暢之書



▲菅義偉すがよしひで官房長官が発表したもずみせいそん茂住菁邨氏  
(飛騨市古川町出身)揮毫による新元号「令和」



四月一日に新元号が発表され、五月一日から「平成」に代わり「令和」時代の幕開けとなりました。

皇位継承に先立ち、新元号が事前に発表されるのは憲政史上初めてで、全国各地で新元号入りの記念グッズが作られたり、著名書家の模範揮毫や自由参加の揮毫イベントなどで大盛り上がりとなりました。

そこで本会でも新元号に親しんでもらおうと、取り上げました。

「令・和」ともに教育漢字で、令は小四年、和は小三年で習います。

令の字は誰もが㉞の形で習うわけですが、明朝体やゴシック体などの活字の主流は㉞であり、政府発表の書も㉞であったために、一気に脚光を浴びた感があります。㉞も古典にある根拠のはっきりした書き方で、いずれも同一の漢字と認められています。三角目も、点・横棒のどちらでも問題はありません。正しく理解して美しく書きましょう。